

河川水質の新しい指標について

参考 1

～ 親しみやすく、わかりやすい川の指標を目指して～

新たな指標の必要性

(課題)

- ・ 従来の有機性汚濁指標のみでは、適切に評価できない
- ・ 河川法の新たな目的（河川環境の整備と保全）に対応した指標が必要
- ・ 洪水時や渇水時に対応した指標が必要
- ・ 人及び生物に対するリスクを評価できる指標が必要
- ・ 下流域への影響を評価できる指標が必要
- ・ 住民にとってわかりやすい指標が必要
- ・ 住民と連携した水質管理が必要
- ・ 個別の河川の特性を反映した指標が必要

従来の評価指標は
BODのみ

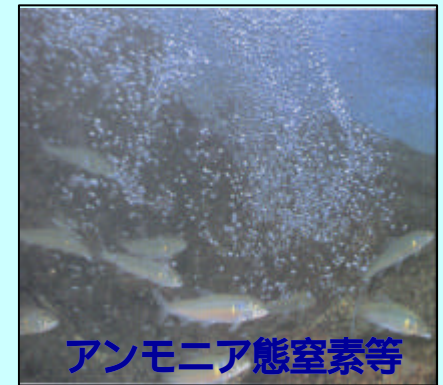
調査項目の設定
調査、評価の実施
等の各段階で、
住民との協働が必要

新しい水質管理の視点と項目

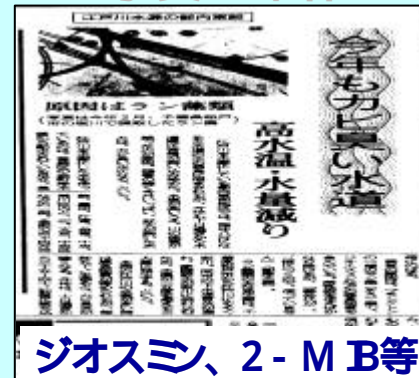
豊かな
ふれあいの確保



豊かな
生態系の確保



利用しやすい
水質の確保



下流域への影響の
少ない水質の確保

